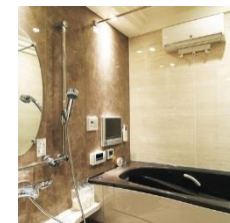


K&O エナジーグループ株式会社 会社説明会



2019年 6月29日開催

<http://www.k-and-o-energy.co.jp/>

本日の内容

1. グループの概要
2. 事業基盤
3. 新中期経営計画(2019～2021年):中計2021の概要
4. グループ事業戦略と推進する取り組み
5. 業績の概要

1. グループの概要

1-1. 会社概要

K&O エナジーグループ

商号	K & O エナジーグループ株式会社 (英文表記) K & O Energy Group Inc.
本店所在地	千葉県茂原市茂原 6 6 1 番地
設立日	2014年 1 月 6 日
代表者	代表取締役社長 梶田 直
資本金	8 0 億円
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード 1 6 6 3)
事業目的	ガス事業、ヨウ素事業等を行う子会社等の経営管理及びこれらに附帯又は関連する一切の事業
決算期	1 2 月 3 1 日
発行済株式総数	30, 336, 061株
従業員数	6 4 1 名 (連結2018年12月末)

1. グループの概要

1-2. 当社グループの構成 (2019年6月1日現在)

K&O エナジーグループ

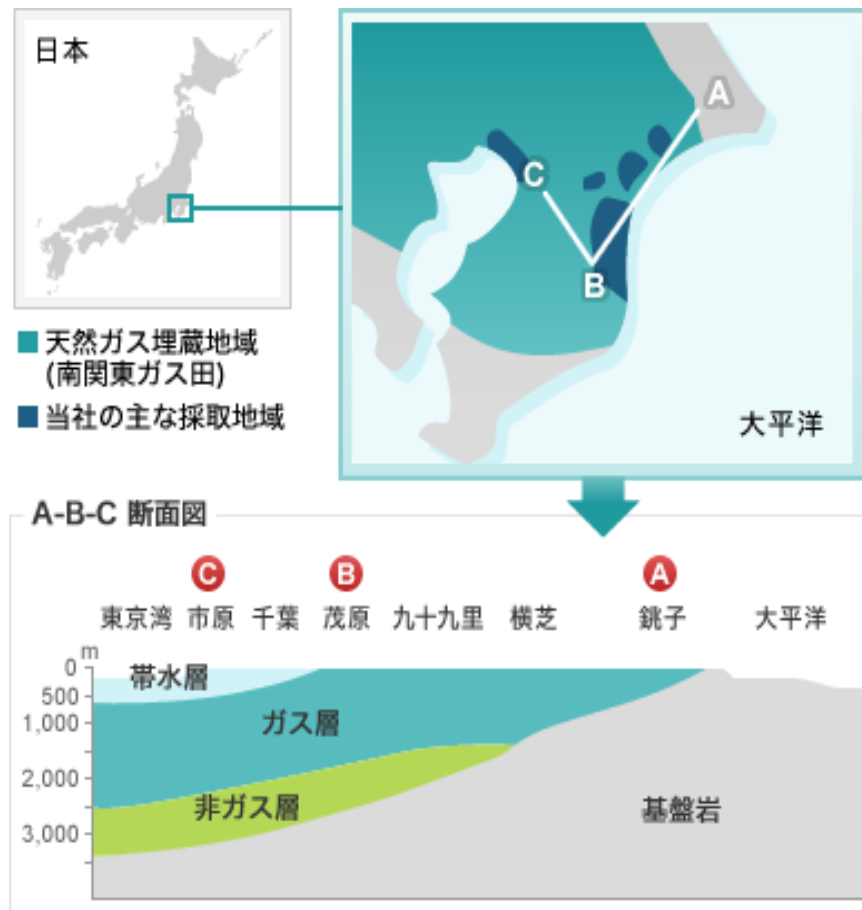
K&Oエナジーグループの事業領域

	関東天然瓦斯開発(株)	大多喜ガス(株)	日本天然ガス(株)	(株)WELMA
ガス事業	天然ガスの生産・販売	都市ガスの供給・販売 LPガスの販売 圧縮天然ガスの製造・販売	天然ガスの生産・販売	
ヨウ素事業	ヨウ素の販売 かん水の販売		ヨウ素の製造・販売 ヨウ素化合物の製造・販売	
その他	土木工事 管工事 さく井工事 地質・水質調査	電気の販売 ガス工事 ガス機器販売		地熱井等の掘削

- 上記4社は連結子会社になります。その他に5社の子会社があります。
- 2018年7月1日付で当社グループに(株)WELMAが加わりました。

2-1. 当社グループの事業基盤

千葉県内の天然ガス・ヨウ素



南関東ガス田（国内最大の水溶性天然ガス田）

- ・ガス年間生産量：約4.5億 m^3
- ・ガス可採埋蔵量：約3,700億 m^3 （17兆円相当）
※現在の生産量で計算すると約800年分の埋蔵量
- ・ヨウ素年間生産量：約7.5千t
- ・ヨウ素可採埋蔵量：約400万t（9兆円相当）
※現在の生産量で計算すると約500年分の埋蔵量
- ・事業者数：8社

関東天然瓦斯開発・日本天然ガスの現況

- ・ガス年間生産量：1.9億 m^3 （2018年実績）
- ・ガス可採埋蔵量：約1,100億 m^3 （自社鉱区内）
※現在の生産量で計算すると約600年分の埋蔵量
- ・ヨウ素年間生産量：約1.6千t（2018年実績）
- ・ヨウ素可採埋蔵量：約64万t（自社鉱区内）
※現在の生産量で計算すると約400年分の埋蔵量

- （参考）
- ・国内天然ガス年間生産量：約29.3億 m^3 （2017年実績）
 - ・国内ヨウ素年間生産量：約9.8千t（2017年実績）
 - ・世界ヨウ素年間生産量：約33.9千t（2017年実績）

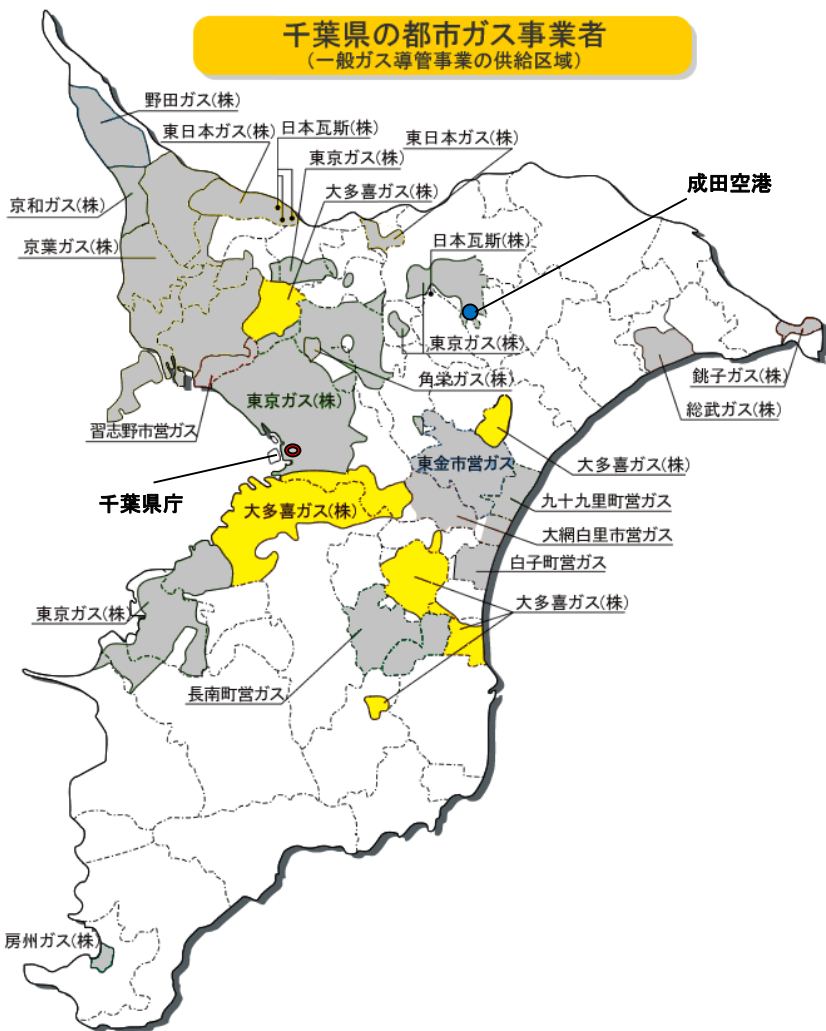
※南関東ガス田の可採埋蔵量は、千葉県内数値。
※当社調べ

2. 事業基盤

2-1. 当社グループの事業基盤

K&O エナジーグループ

千葉県の都市ガス事業者
(一般ガス導管事業の供給区域)



千葉県内の都市ガス事業者数 (2018年3月末時点)

- ・ 16事業者 (私営10 + 公営6)

※旧一般ガス事業者のうち、ガス小売事業と一般ガス導管事業を営む者の数。

大多喜ガスの現況 (2018年実績)

- ・ お客様件数 : 172,461件
- ・ ガス販売量 : 36,555百万MJ (937百万m³)

※全国のガス事業

- ・ 一般ガス導管事業者数: 198社 (私営173 + 公営25)
※2018年3月末
- ・ お客様件数 (メーター取付数) : 30,397千件
※2017年12月末

- ・ ガス販売量 : 1,593,624百万MJ (40,862百万m³)

※2017年1月～12月

注1 『ガス事業便覧2018年版』 (日本ガス協会) による。

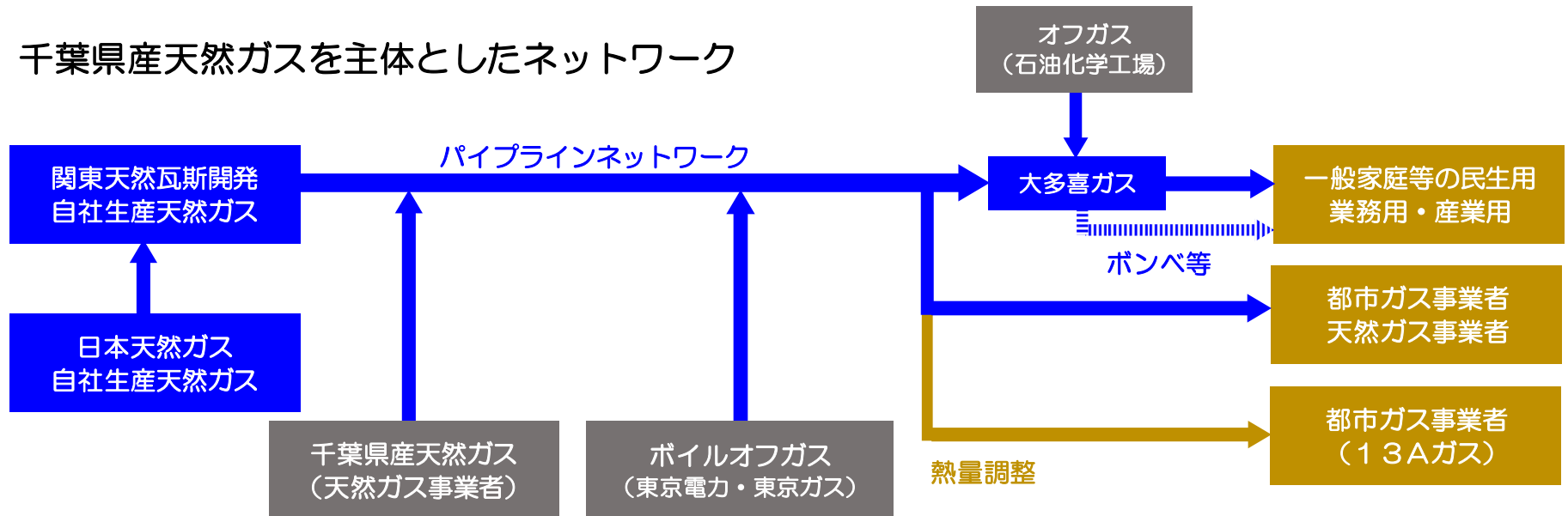
2 ガス販売量のカッコ内は39MJ/m³換算値 (当社換算)

2-1. 当社グループの事業基盤

グループガス事業相関図

(2019年1月1日現在)

千葉県産天然ガスを主体としたネットワーク



LNGネットワーク



※上記のほか、大多喜ガス(株)が、外部よりL Pガスを仕入れ、一般家庭向けを中心に販売している。

2. 事業基盤

2-2. 効率的で環境にやさしい千葉県産天然ガス

K&O エナジーグループ

南関東ガス田から産出される天然ガスは、メタンが約99%を占め、一酸化炭素や硫黄分等をほとんど含まない**クリーンエネルギー**です。

また、天然ガスは、他の化石燃料に比べて燃焼時の二酸化炭素排出量が少ないため、地球温暖化防止のために期待が集まる、**次世代を担うエネルギー**です。

千葉県産の天然ガスの組成



産出される天然ガスのうち
99%がメタン

エネルギー別排出比較

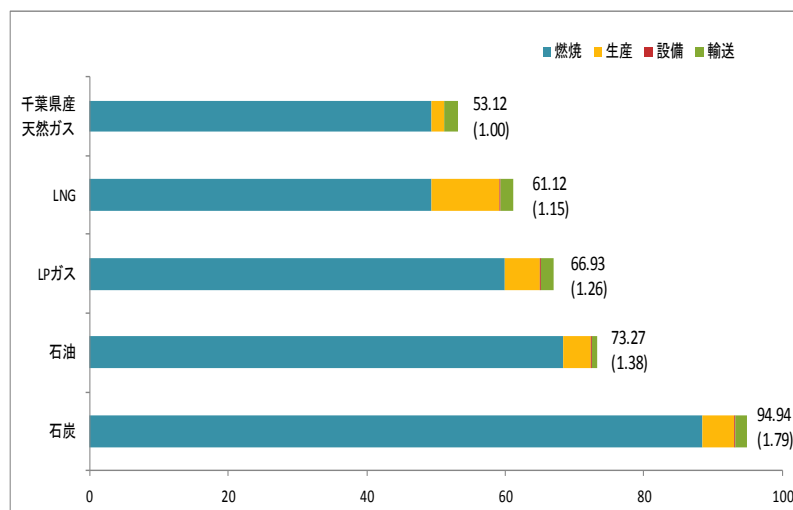


出典(1) IEA (国際エネルギー機関) 「Natural Gas Prospects to 2010」(1986)
(2) エネルギー総合工学研究所「火力発電所大気影響評価技術実証調査報告書」(1990.3)

◆資源が生産から燃焼に至るまでに排出する二酸化炭素量

※()内は、千葉県産天然ガスを1としたときの比率

単位: g-CO₂/MJ



※日本エネルギー経済研究所「わが国における化石エネルギーに関するライフサイクル・インベントリー分析」(1999)を基に、当グループにて試算

2-2. 千産千消（地産地消）エネルギー

大多喜ガスは、関東天然瓦斯開発などによって生産された千葉県産の天然ガスを都市ガスとして千葉県内のお客様に供給しています。

千葉県産の天然ガスは、海外から輸入するLNGと比べて海外情勢による影響等を受けにくく、輸送コストも抑えられるという特長があり、大多喜ガスの**ガス料金は全国的にも安価**なものとなっております。

当社グループは、千葉県内で生産された天然ガスが千葉県内で消費される、**エネルギーの千産千消**（地産地消）を実現させています。



2. 事業基盤

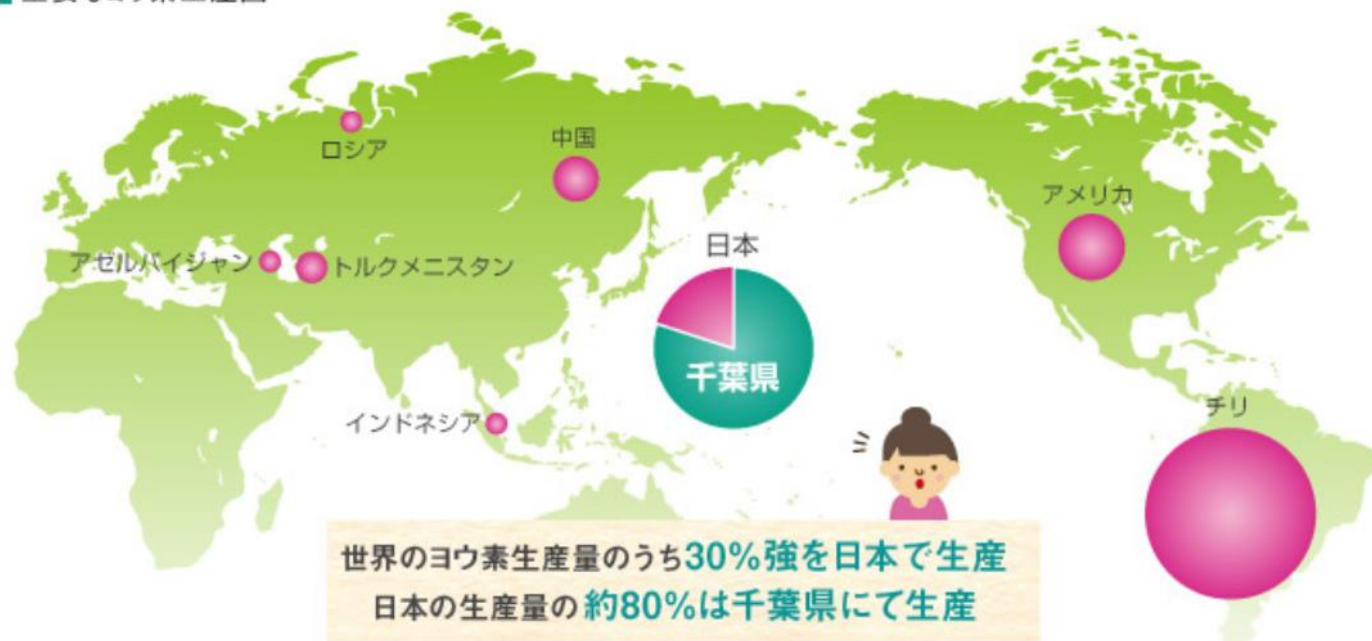
K&O エナジーグループ

2-3. 日本は世界有数のヨウ素生産地

当社グループは事業の第2の柱として、ヨウ素の生産を行っています。
日本のヨウ素生産量は、世界生産量の30%超を占めています。さらに
日本の生産量の約80%は、千葉県にて生産されています。
その中で、当社グループでは世界生産量の約5%に当たる量を生産しています。

■ 主要なヨウ素生産国

資源の少ない日本
にとって、ヨウ素
は世界に誇る貴重
な資源です。



2. 事業基盤

2-3. 用途が拡大する有望な資源 ヨウ素

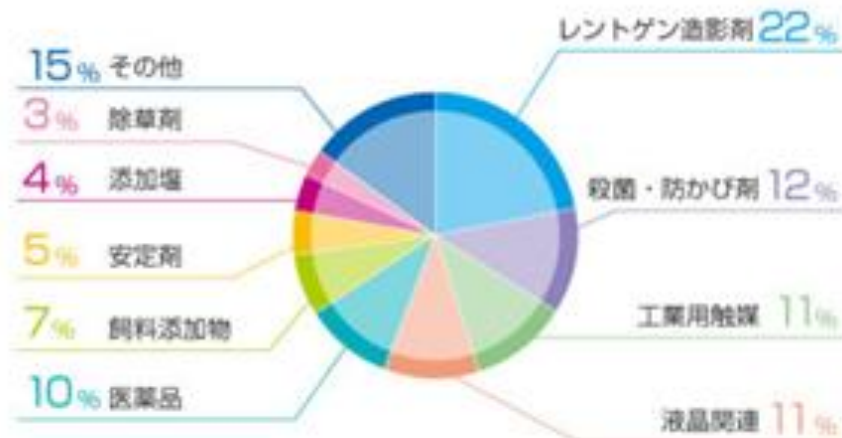
K&O エナジーグループ

ヨウ素の用途として、私たちの生活に身近なものでは、うがい薬や殺菌剤の原料等に使われています。さらに最近では、液晶パネルの偏光フィルム等のハイテク分野でも活用されています。

ヨウ素は、用途が拡大している、有望な資源です。

当社グループは、**世界有数の生産者**です。

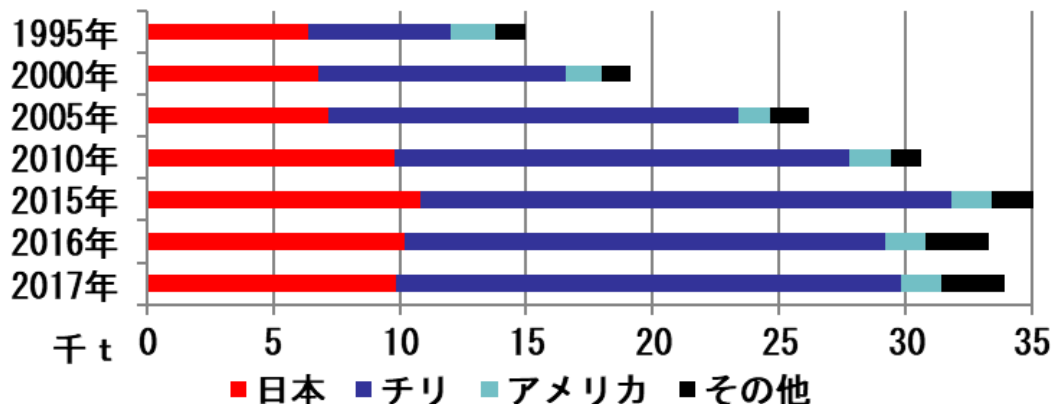
ヨウ素の用途



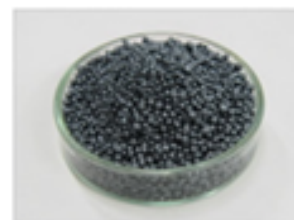
※当社グループ調べ

世界のヨウ素生産量の推移

当社調べによる



ヨウ素



製品化されたヨウ素



3-1. VISION2025と中期経営計画の位置づけ

～社会の発展に貢献するために～

2016年、お客さまと社会に選ばれ続ける100年企業に成長するため、長期経営ビジョン「VISION2025」を策定しました。

VISION 2025 ～K&Oグループが2025年に「ありたい姿」「あるべき姿」～

1. “競争力ある県産ガスの開発”・“効率的な導管網の整備”・“都市ガス事業の更なる強化”を推進し、国内屈指のガスバリューチェーンを展開する。
2. 貴重な資源であるヨウ素の生産者として、積極的な増産・拡販を図り、世界の需要拡大に 대응する。
3. 千葉から世界へ。新興国を中心とした海外エネルギー市場の成長への貢献を通じて更なる発展を遂げる。
4. お客さま・時代のニーズ、環境の変化をとらえ、新たな事業に取り組み、社会とともに持続的に成長する。

経営目標 2025年	
経常利益	65億円
営業CF	90億円
ROA	4.5%以上
ガス生産量	2億m ³
ガス販売量	15億m ³
ヨウ素販売量	2,100トン

経営理念

天然ガスの生産と販売を中核に、快適で豊かな生活の実現と社会の発展に貢献する

<経営方針>

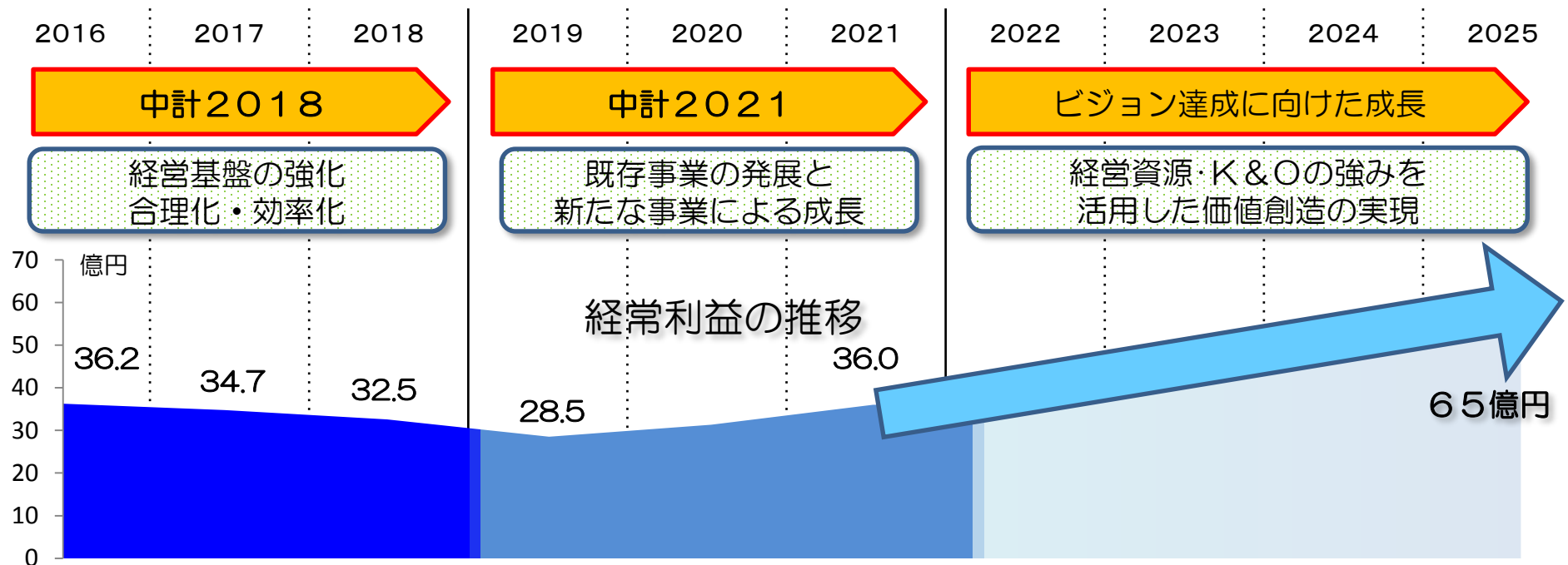
環境との調和・地域社会との共生、安全・品質・サービスの向上、活力ある企業風土の実現



3-2. VISION2025と中期経営計画の位置づけ

～社会の発展に貢献するために～

- VISION2025の達成に向けたファーストステージとして2016年を初年度とする中期経営計画（2016～2018年）：中計2018を策定し、「積極的な設備投資や事業再編による経営基盤の強化・再構築」を実行しました。
- 2019年より、VISION2025のセカンドステージとして、ファーストステージで強化・再構築した経営基盤を基に、既存事業の発展と新たな事業により成長する新中期経営計画（2019～2021年）：中計2021を実行します。
- 当社グループは、VISION2025の達成を通じて、社会の発展に貢献することを目指します。



3-3. 価値創造モデルと2021年目標値

中計2021は、VISION2025の実現に向け、既存の資源開発・総合エネルギー事業の発展に加え、新たな事業領域に挑戦するセカンドステージとし、**6つの事業戦略**のもと、ファーストステージで強化した経営基盤・当社グループの強みを最大限活用し成長を目指します。

<グループ事業戦略>

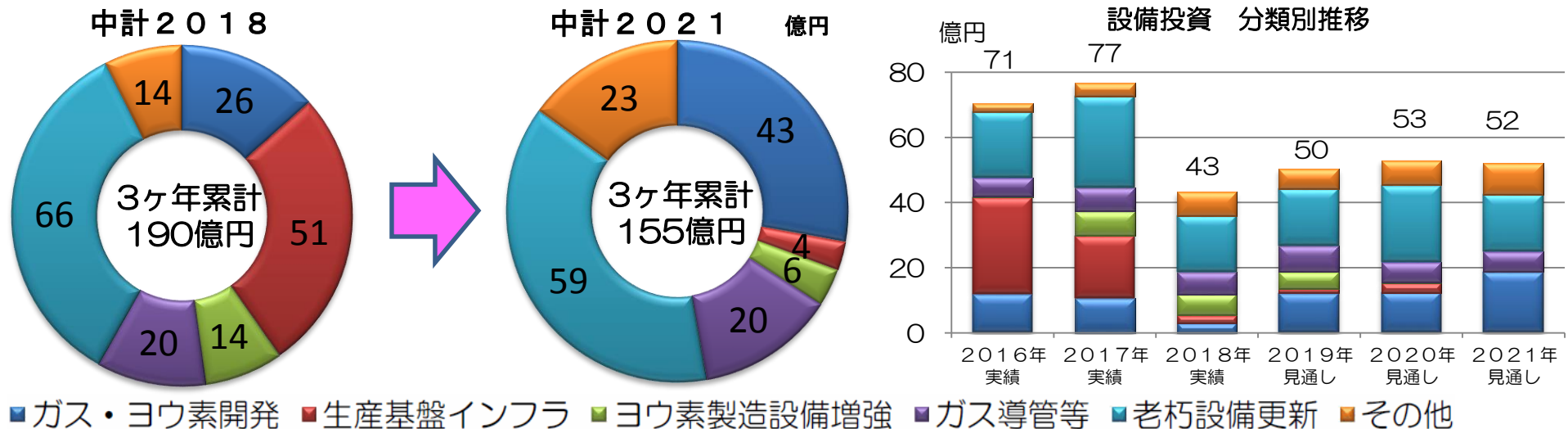


3-4. 設備投資の見通し

中計2021の3ヶ年で総額155億円の設備投資を実施

- 中計2018の3ヶ年で増強した生産基盤インフラ・ヨウ素製造設備を礎に、中計2021の3ヶ年では、ガス・ヨウ素の維持・増産に繋がる投資を積極的に行います。
- 天然ガス・ヨウ素を中長期的に安定して生産するため、引き続き老朽設備の更新、導管改修に取り組んでいきます。

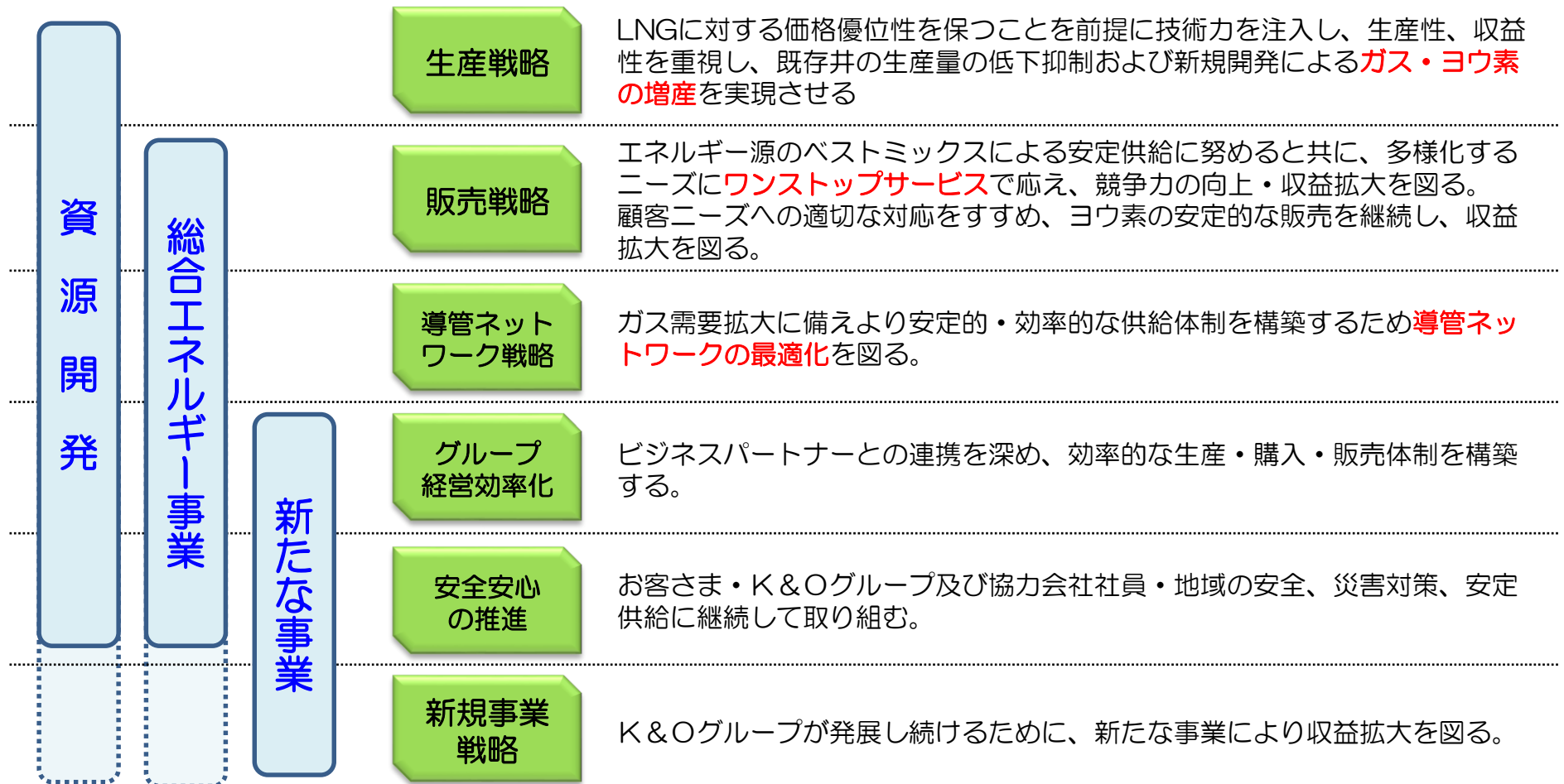
区分	設備投資額	中計2021の3ヶ年中の主な設備投資案件
ガス・ヨウ素開発	43億円	茂原北部開発、地引開発、代替井開発、ハイパワーリフト対策
生産基盤インフラ	4億円	金剛地送水管、千葉工場内排水管
ヨウ素製造設備増強	6億円	ブローイングアウト法設備
ガス導管等	20億円	都市ガス本支管、供給管
老朽設備更新	59億円	老朽設備更新、導管改修



注：設備投資額には、なのはなパイプライン(株)による高圧新導管建設投資を含んでおりません。

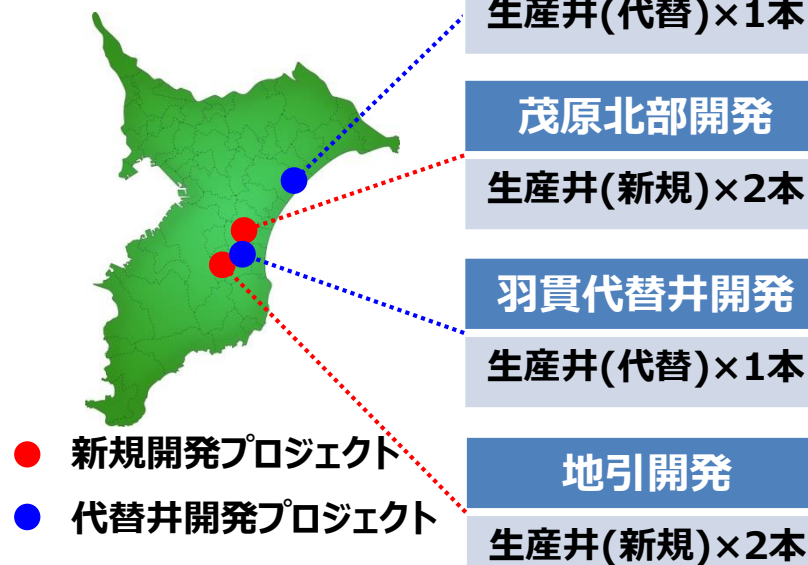
4-1. グループ事業戦略

中計2021は、VISION2025の実現に向け、既存の資源開発・総合エネルギー事業の発展に加え新たな事業に挑戦するセカンドステージとし、**6つの事業戦略**のもと、ファーストステージで強化した経営基盤・当社グループの強みを最大限活用し成長を目指します。



計画的な開発の推進により、ガス・ヨウ素生産量の維持・増産を図ります

主な開発プロジェクト



◆ 新規開発プロジェクト（増産に向けて）

➤ 茂原北部開発（全体計画 6本）

施工済み2本に加え、2021年までに更に**生産井2本**の掘削を計画

➤ 地引開発（全体計画 5本）

施工済み3本に加え、2021年までに更に**生産井2本**の掘削を計画

◆ 代替井開発プロジェクト（生産の維持に向けて）

➤ 横芝代替井開発（全体計画 1本）

➤ 羽貫代替井開発（全体計画 1本）



生産中の茂原北部開発生産井
※MK-4号井(2017年生産開始)



稼働中の地引開発採収基地
※JOH-1基地(2013年稼働開始)

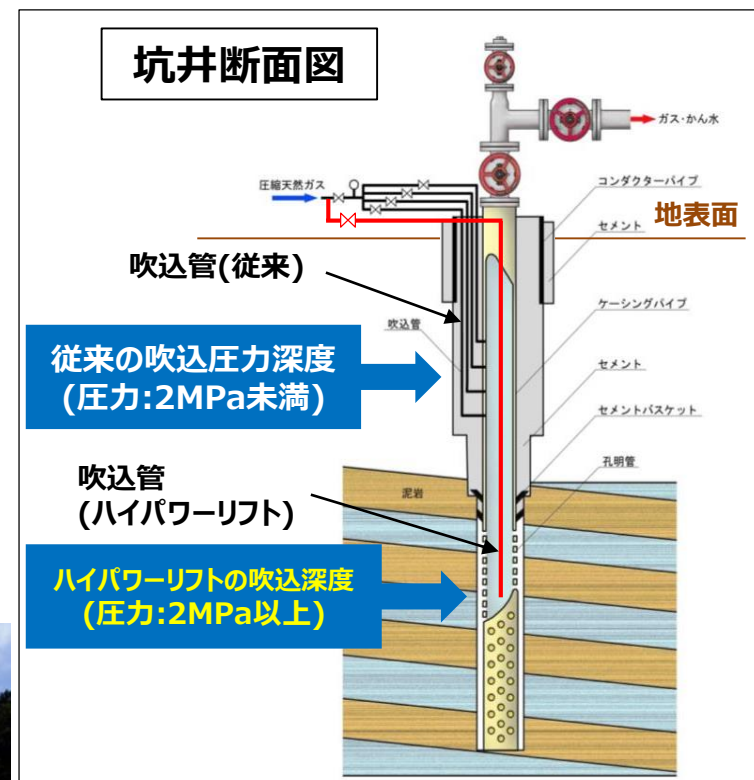


生産井掘削時の様子〔橋〕
※P-20号井(2017年)

既存坑井の活性化を実施し、ガス・ヨウ素生産量の維持・増産を図ります

生産性向上のための新技術の開発及び推進

- 生産井の活性化のため、新技術（「**ハイパワーリフト**」：従来よりも深い深度からより高い圧力でガスリフトする方式）により増産を図ります。
（既存生産井に対してハイパワーリフトを実施し、生産量の増産を確認済）
- 2021年までに更に既存生産井4本に対しハイパワーリフトによる増産対策を実施します。



ヨウ素製造設備の更新と増強により、ガス・ヨウ素生産量の維持・増産を図ります

九十九里工場の更新・増強

- 九十九里工場を既存のイオン交換樹脂法からブローイングアウト（BO）法による生産設備に更新・増強し、新規開発に伴い増量するかん水を受け入れ、**ヨウ素の増産**を図ります。



稼働中のBO法生産設備
※日天千葉工場No.2（2017年稼働）

井戸元吸着設備増強・改良

- 井戸元吸着設備を改良・増設し、ヨウ素を回収せず還元していたかん水から**ヨウ素を採取し増産**を図ります。

（2021年まで1か所新設）



稼働中の井戸元吸着設備
※NWH-1（2014年稼働）

4-2. 推進する取り組み：販売戦略 / 総合エネルギー事業（総合エネルギー営業の推進） 都市ガス・LPGガス・電気のワンストップ営業を展開します

K&O エナジーグループ

総合エネルギー営業の推進

都市ガス営業とLPGガス営業に加えて、事業開始となった電気の販売をあわせただお客さまのためのワンストップ営業を展開します

「都市ガス」「LPGガス」「電気」を三位一体の「総合エネルギー」と位置づけ、主に下記の事項を検討し実行します。

- お客さまに最適なエネルギー提案
- お客さまにとってわかりやすい窓口体制の整備
- 需要獲得のための効率的な組織体制及び営業活動
- 総合エネルギー営業マンの人材育成



お客さまの多様なニーズに合わせた個別提案により ガス需要の維持・獲得を図ります

K&O エナジーグループ

家庭用ガス需要の維持・獲得

- 早期の建築情報収集と、新築住宅市場への積極的なガス化提案営業を展開します
- お客さま情報誌「ここそら」、キャンペーン・イベント等、多様な広報展開を通じ「ガスのある豊かな生活」を提案します

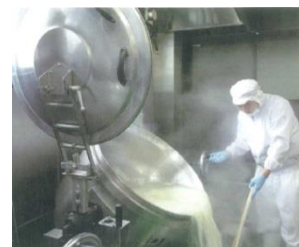
- ・ エネファーム等のガス販売量の増加に寄与するガス設備の販売拡大
- ・ 既存住宅の他社エネルギー使用のお客さまへ、最新ガス機器の紹介を含めた大多喜ガスの「ガスのある豊かな生活」を提案
- ・ 「**ガスと電気のセット販売**」によるガス需要の維持



業務用ガス需要の維持・獲得

- ガス空調機器・ガス厨房機器の普及促進営業および他社エネルギー使用のお客さまに、大多喜ガスのガスが選ばれる営業を展開します
- お客さまのニーズや課題を解決する**ソリューション型営業**を推進します

- ・ 最適なガス料金メニューおよび空調機器等のメンテナンス契約の提案
- ・ 他社エネルギー物件の大多喜ガスへのガス化提案
- ・ エネルギー診断等のエンジニアリング力を活用したガス化提案
- ・ ガス空調機器（GHP）の普及促進営業の強化（学校冷房設備）



業務用厨房機器
（ガス回転釜）



ガスコージェネレーションシステム

2019年4月、いよいよ、一般のご家庭にも 電気の販売を開始

電気の販売体制の構築

- 2018年10月から高圧電気の小売市場に参入しました。
《大多喜ガス(株)の強み》
 - ・ ガス事業で築いた販売ネットワーク
 - ・ 30%出資の発電事業者「五井コストエナジー(株)」からの安定的な電源確保による、市場取引での価格変動の影響を受けにくい事業構造
- 2019年4月から家庭用を中心とする**低圧電気の販売開始**により事業を拡大しています。
- 高圧と低圧を併せて2021年度に**約8,000件**のお客さまへの販売を目指します。



五井コストエナジー(株) 五井発電所



京葉コンビナート市原臨海部のお客さまのご要望に応える 天然ガスインフラの整備を着実に進めます

なのはなパイプラインの建設推進

- **京葉コンビナート市原臨海部**での天然ガスの販売インフラ整備を目的に、**高圧新導管の建設**※を進めます。
- 高圧新導管の供用により天然ガスを検討されているお客さまからの更なる要望に応えられるようになります。

※建設主体は、大多喜ガス(株)の50%出資会社である「なのはなパイプライン(株)」となります。

【なのはなパイプライン(株)概要】

設立	： 2018年5月16日
所在地	： 千葉県千葉市緑区
資本金	： 4億8千万円
株主構成	： 京葉ガス(株)50%、大多喜ガス(株)50%
事業内容	： ガス導管事業

【パイプラインの概要】

区間	： 富津LNG基地 ～姉崎火力発電所（約30km）
口径	： 600mm
供用開始	： 2022年度予定



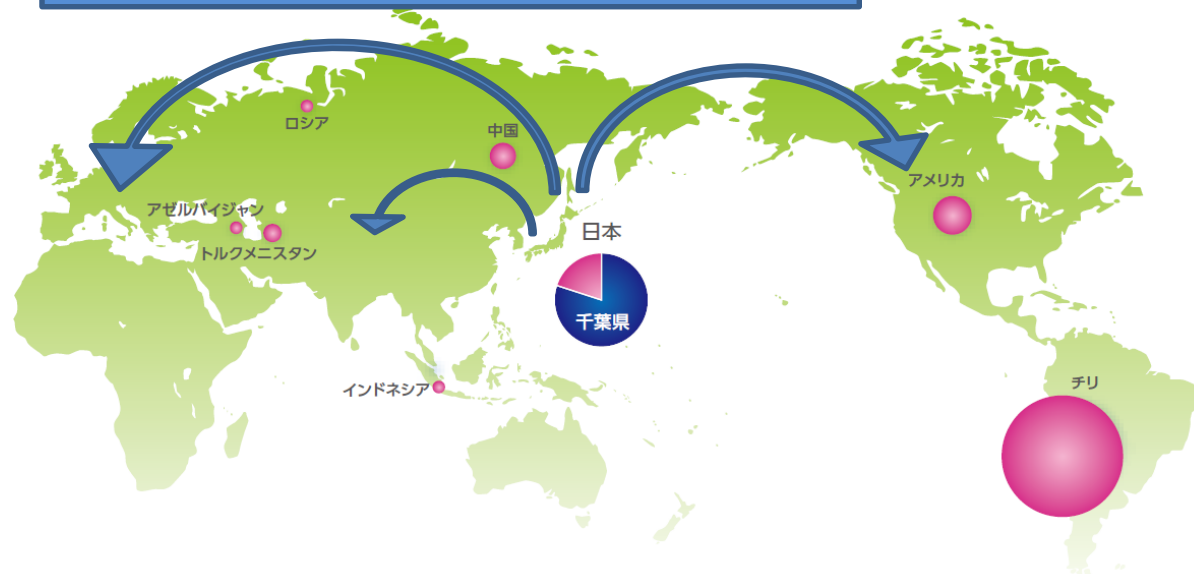
高まる需要に応え、日本が世界に誇る資源であるヨウ素について、引き続き安定的な販路の確保に努めます

K&O エナジーグループ

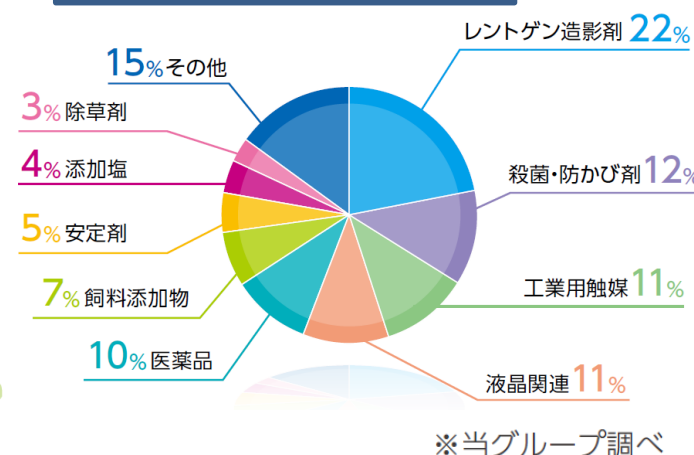
ヨウ素販売の推進

- 日本は南米チリに次いで世界第2位のヨウ素生産国であり、資源小国と言われる日本ですが、ヨウ素に関しては資源大国と言えます。
- さらに、日本の生産量の80%は千葉県で生産され、千葉県産のヨウ素は様々な製品の原料として世界各国に輸出されています。
- 当社グループは**世界生産量（約33.9千トン）の約5%、国内ヨウ素生産量（約9.8千トン）の約15%**を生産しており、市場と顧客ニーズを適切に把握し、日本が世界に誇る資源であるヨウ素を引き続き安定的に販売していきます。

主要生産国と当社グループの販売イメージ



ヨウ素の用途



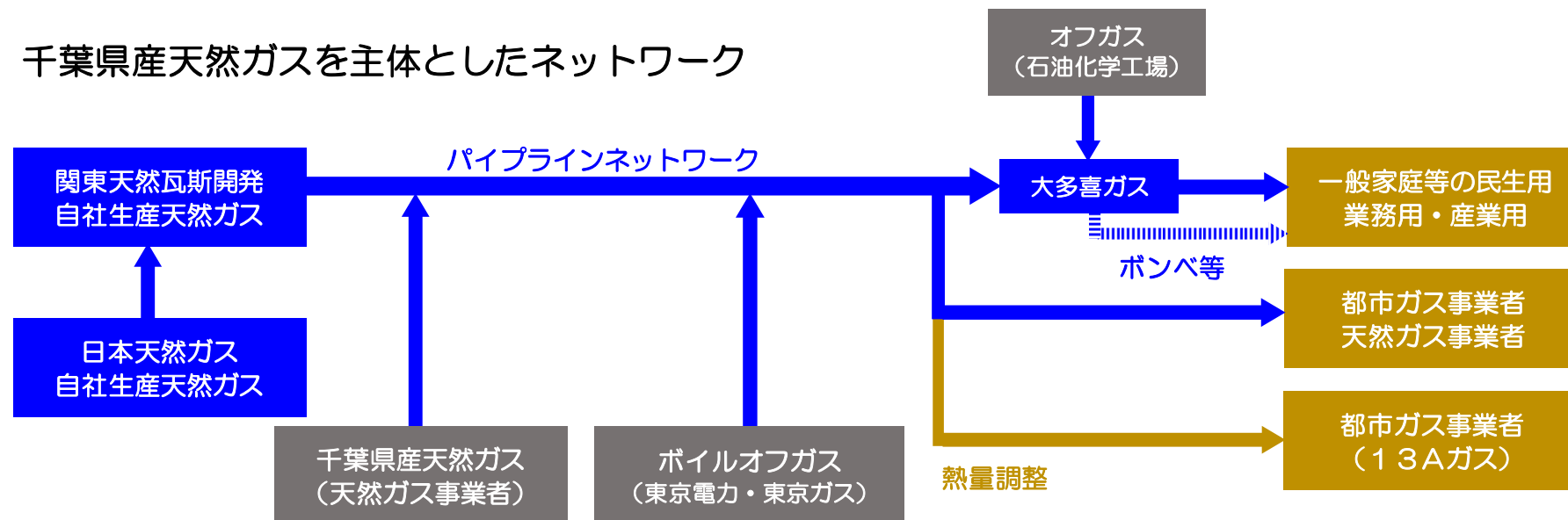
安定的・効率的な供給体制を構築するため、導管ネットワークの最適化を図ります

12 A ネットワークの強化

千葉県産天然ガスを主体とした導管ネットワークの強化策として、現状の供給体制について検討し、必要な施策を実施します。

- 販売戦略に合わせた適切な需要と供給のガスバランスと効率的な供給体制
- 設備リスクに備えた**バックアップ供給体制**
- **多様なガス源と供給元**を確保した継続的な供給体制

千葉県産天然ガスを主体としたネットワーク



ビジネスパートナーとの連携を深め、効率的な生産・購入・販売体制を構築していきます

事業会社間の業務効率化

- ガス・ヨウ素の生産について事業会社間の連携を深め、効率的な体制を作り上げます。

協力会社との連携強化

- 当社グループの持続的な成長のために、事業基盤の一翼を担う協力会社との連携をさらに強化していきます。

WELMAとのシナジーによる事業発展

- (株)WELMAの技術力を共有し且つ研修等人的交流を通じて、ボーリング工事だけでなく坑内検層や地熱井維持管理など総合力を高める取組を推進します。
- 当社**グループ全体でのシナジー**による事業発展を目指します。



計画的な老朽更新の実施により、強固な保安体制を確立します

未防食圧入管の入替

- ガス漏洩や地震時の破損リスクがある**未防食の圧入管※1) (白ガス管)**の入替工事を継続的に実施し、使用中の白ガス管の約9,300mのうち、約7,300mは2021年まで、約2,000mは今後随時更新を図ります。

～ 白ガス管とは ～

亜鉛メッキ処理を施した鋼製のガス管で、腐食の進行によりガス漏洩のリスクがあります。

入替前



白ガス管(亜鉛メッキ鋼管)

入替後



ステンレス鋼管
(ポリエチレン被覆)



圧入管入替工事の様子
(2018年)

基地・配管設備の更新

- 従来より行っている**ガスリフト用圧縮機の入替工事**を継続実施し、2021年までに更に15機の更新を実施します。
- 老朽化が進む鉄筋コンクリート製沈砂槽・セパレーター※2)の建替計画を立案します。



ガスリフト用圧縮機
(2014年更新)



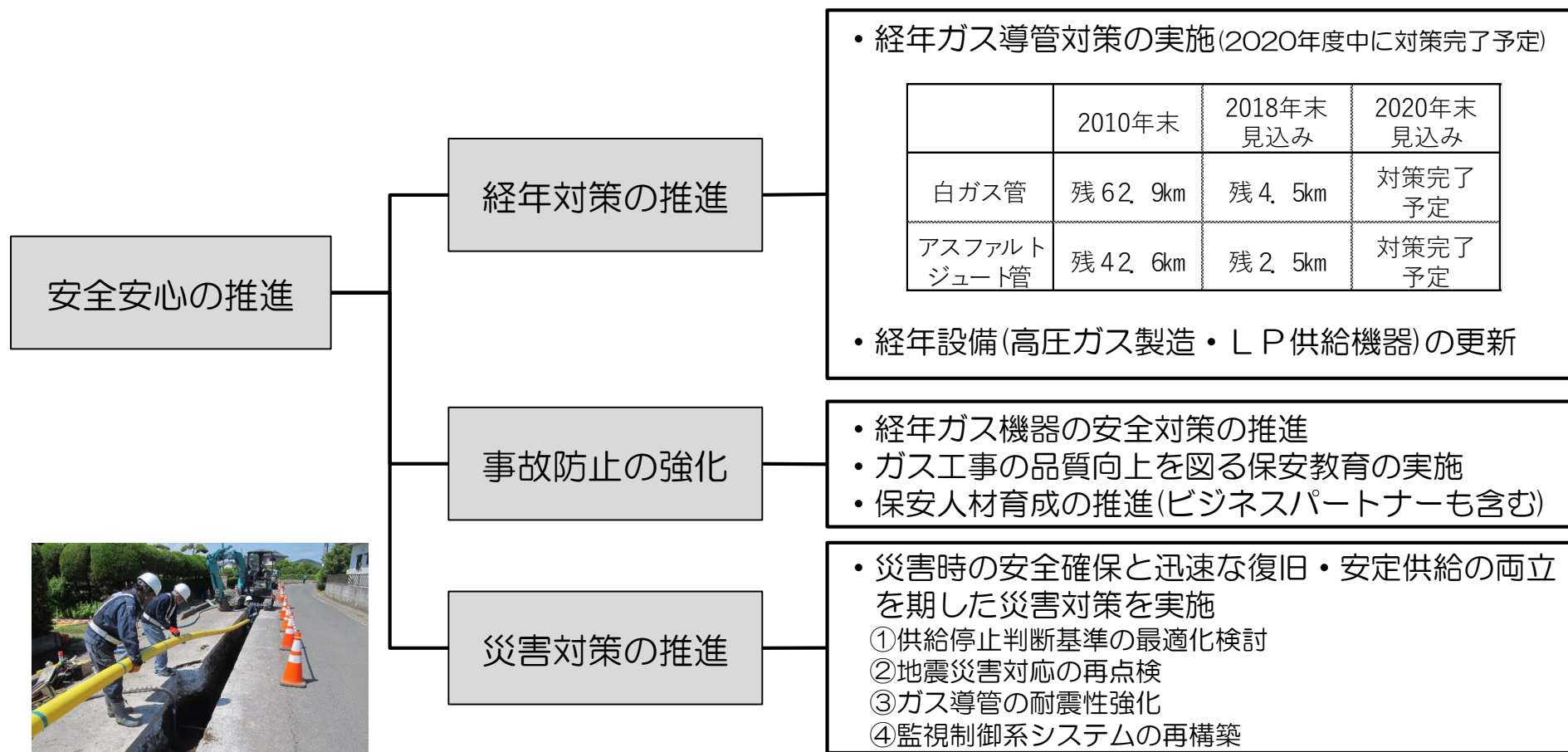
沈砂槽・セパレーター (2013年新設)

※1) 基地で昇圧したガスを天然ガス井まで送るためのガスリフト用パイプライン

※2) 天然ガス井より生産されたガスとかん水を分離するための施設

経年設備の更新と地震災害対策の強化に取り組み ガス供給インフラの安全安心を追求していきます

- 安全安心の確保に向けて、保安対策は「**経年対策**」「**事故防止の強化**」及び「**災害対策**」の視点で取り組みます。
- 経年設備は計画的な更新に取り組むことにより政府が進める国土強靱化に貢献します。また、設備の耐震性の向上、災害時のライフライン復旧の更なる早期化の実現に取り組みます。



再生可能エネルギー事業の中でも既存事業との親和性の高い地熱発電関連事業での更なる発展を目指します

地熱発電関連事業への参入

- 2018年7月、日本各地で地熱井ボーリング工事の実績がある(株)WELMAが新たに当社グループに加わりました。
- (株)WELMAのこれまで培った技術と当社グループとのシナジーによる**地熱関連事業での成長**を目指します。
- K&Oグループは、安定電源として優位性のある地熱発電事業への参画を目指します。

国を挙げてのプロジェクト

- 2015年7月に策定された「長期エネルギー需給見通し」において、地熱発電は設備容量を約3倍（約150万kW）にすることが目標とされました。
- 国の政策により地熱開発に向けた助成金も創出され、日本各地で地熱調査・ボーリング工事が行われています。

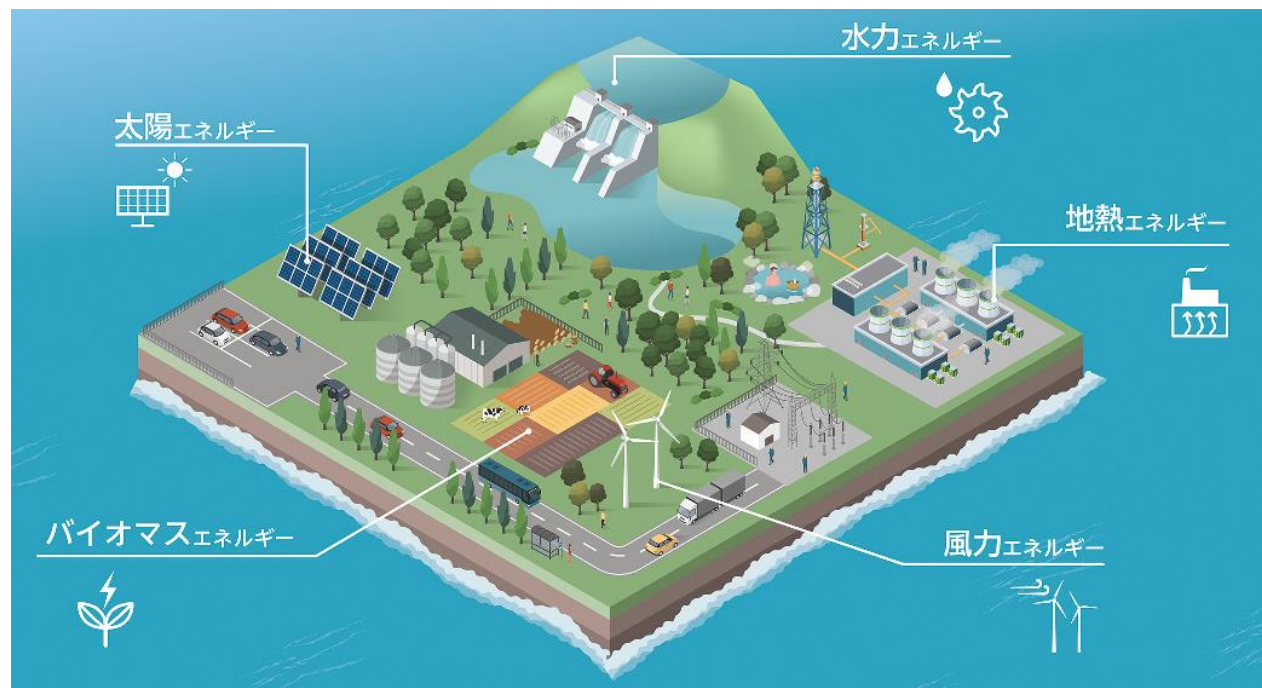


WELMA NE-2000 地熱掘削リグ

K&Oグループの第3の柱として、新たな事業への参入を目指します

新たな事業の検討推進

- 環境にも配慮した**再生可能エネルギー**による**発電事業への参画**を目指します。
- 千葉県を発祥として事業を展開する企業として**地域に貢献できるサービス・事業を創出し**、地元と共に発展を目指します。
- 「千葉から世界へ」をスローガンに、資源開発および総合エネルギー事業など、これまで培った技術や経験を活かし、**国内外での事業展開**を図ります。



天然ガス・ヨウ素とともに眠る第3の資源 植物の成長を助ける「かん水フルボ酸」

“ミネラル”を運ぶ「かん水フルボ酸」

- かん水は天然ガス・ヨウ素以外にもいくつかの有用な成分を含有しており、その一つが「**かん水フルボ酸**」です。
- 「かん水フルボ酸」は、動植物の遺骸が長い年月をかけて自然界で分解や重合を繰り返して出来る茶褐色の有機物で、腐植物質の一種です。**土の中の各種ミネラルと結合し植物への吸収を促進**することにより、植物の生育を高めます。
- K&Oグループは、2002年からお客さまと用途開発を進め、家庭用園芸肥料メーカー、水耕栽培に取り組む植物工場及び農家の皆様にご採用いただいております。

千葉県「地下かん水」より産出する資源の高度利用

地下かん水

天然ガス

ヨウ素

フルボ酸

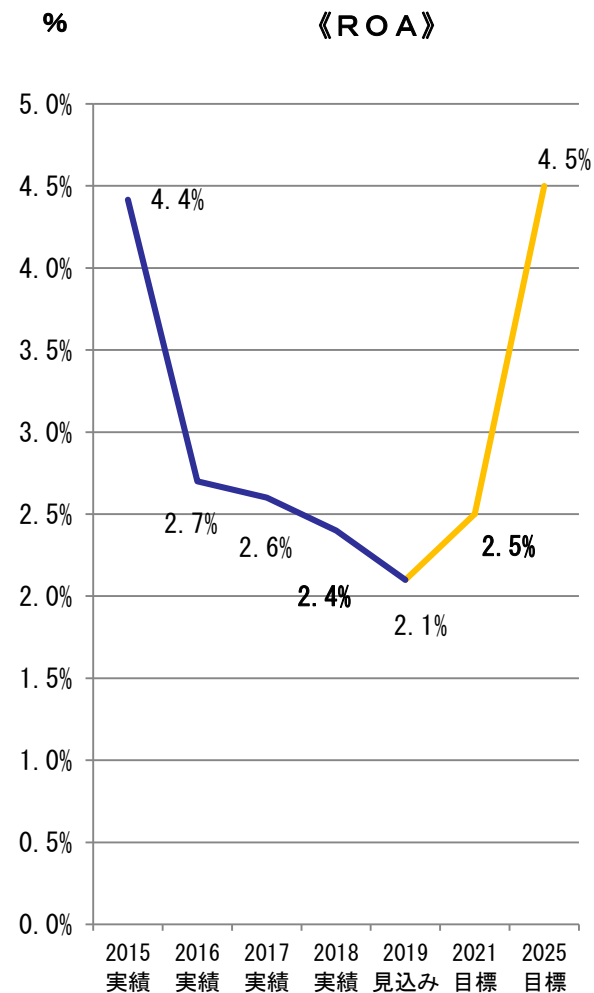
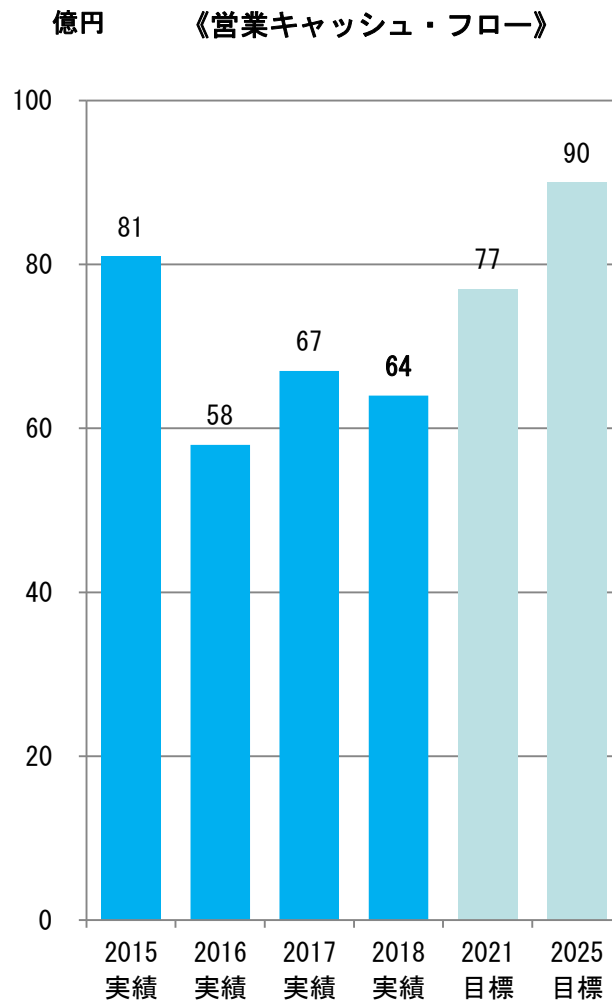
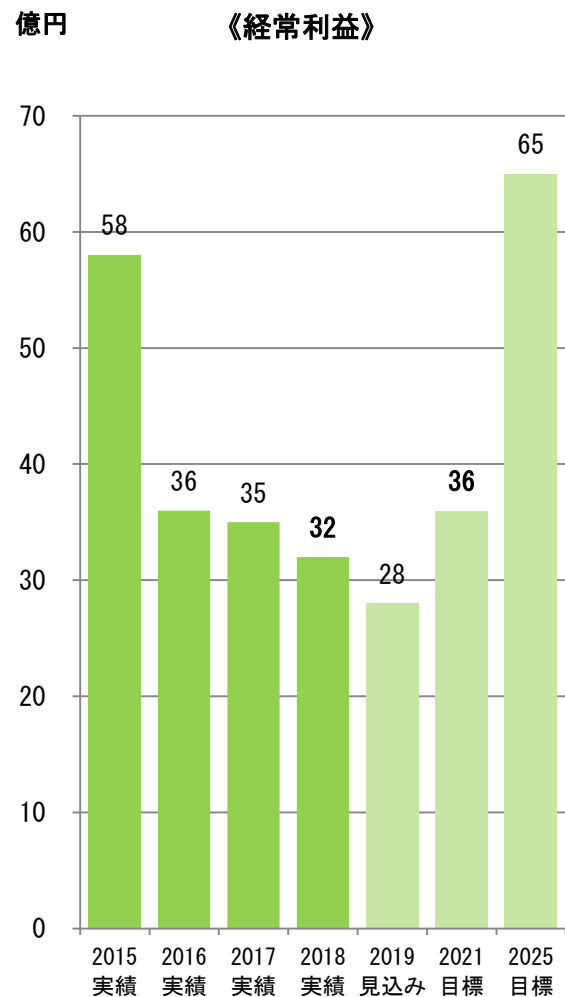
排水



5. 業績の概要

5-1. 経営目標－2025年に向けて

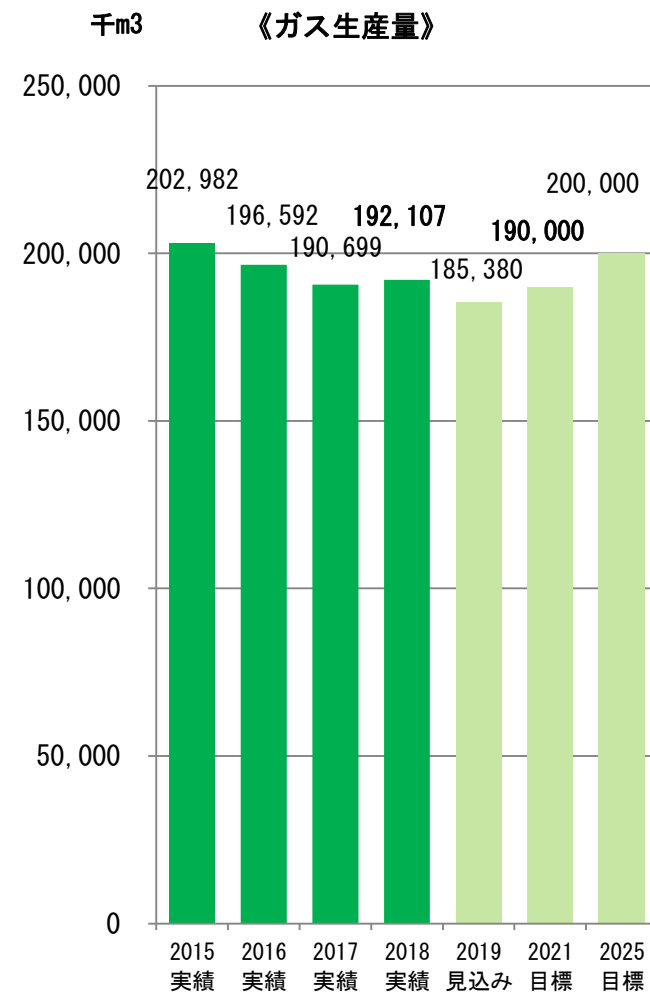
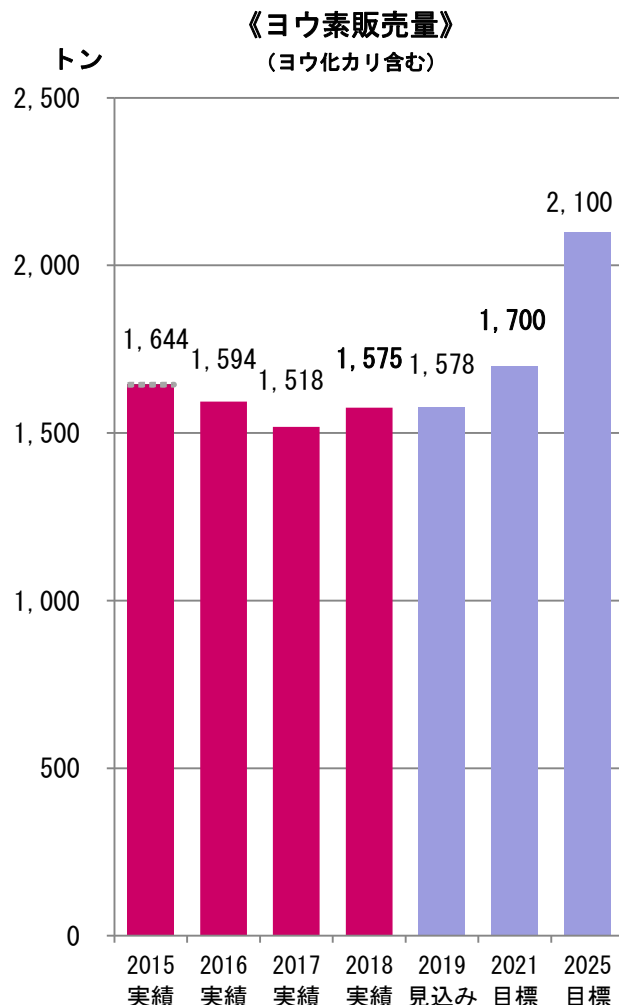
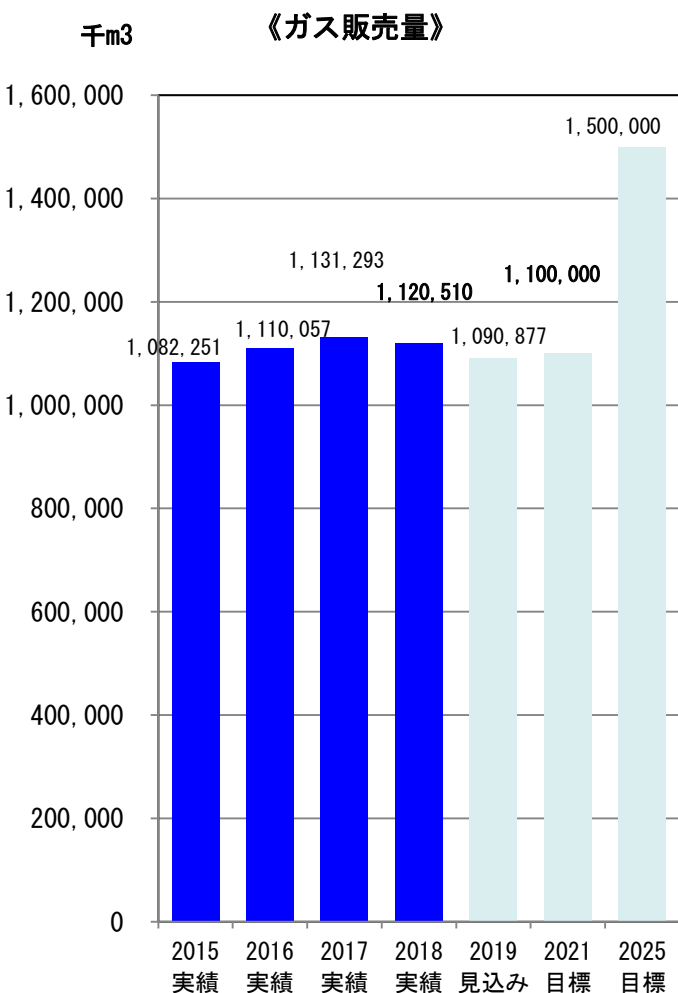
K&O エナジーグループ



5. 業績の概要

5-1. 経営目標－2025年に向けて

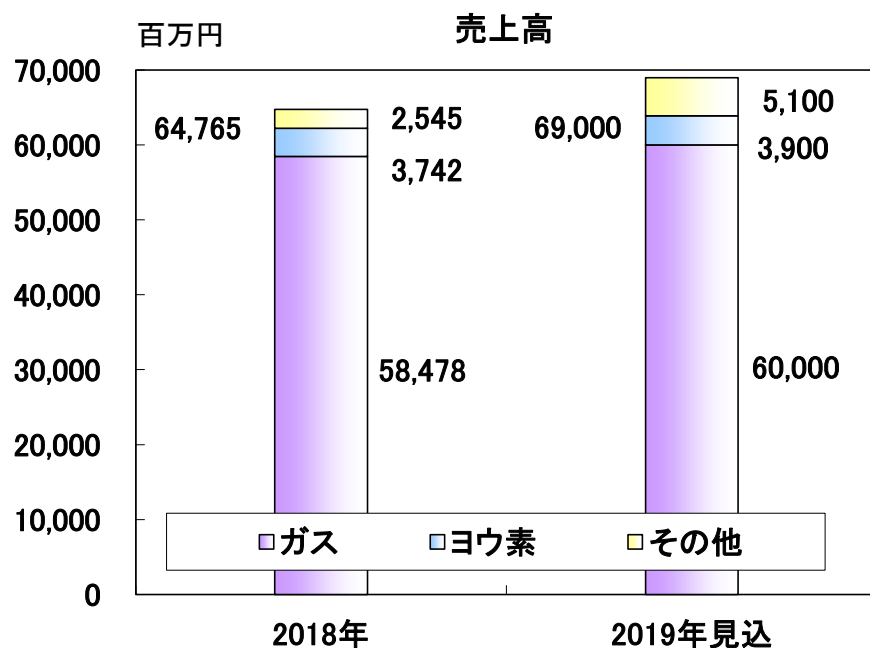
K&O エナジーグループ



5. 業績の概要

5-2. 2019年収支見込み

K&O エナジーグループ



<売上高>

〔ガス事業の見通し〕

- ・ 輸入エネルギー価格の影響による一部販売価格の上昇など

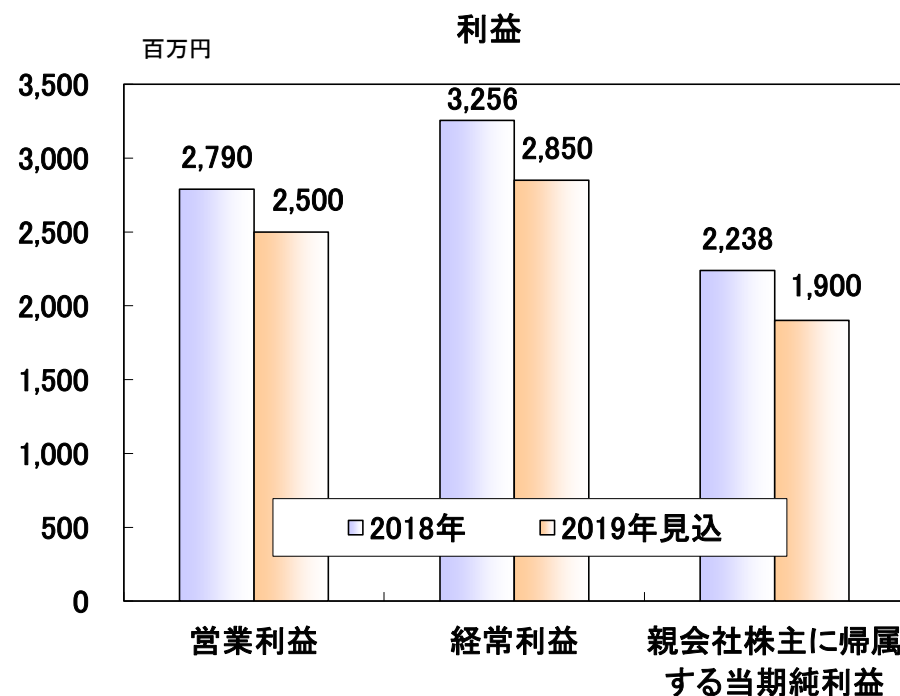
〔ヨウ素事業見通し〕

- ・ 販売価格の上昇

※想定為替レート 109.0円/\$

〔その他の事業の見通し〕

- ・ 連結子会社の取得やグループ企業再編の影響などにより増加



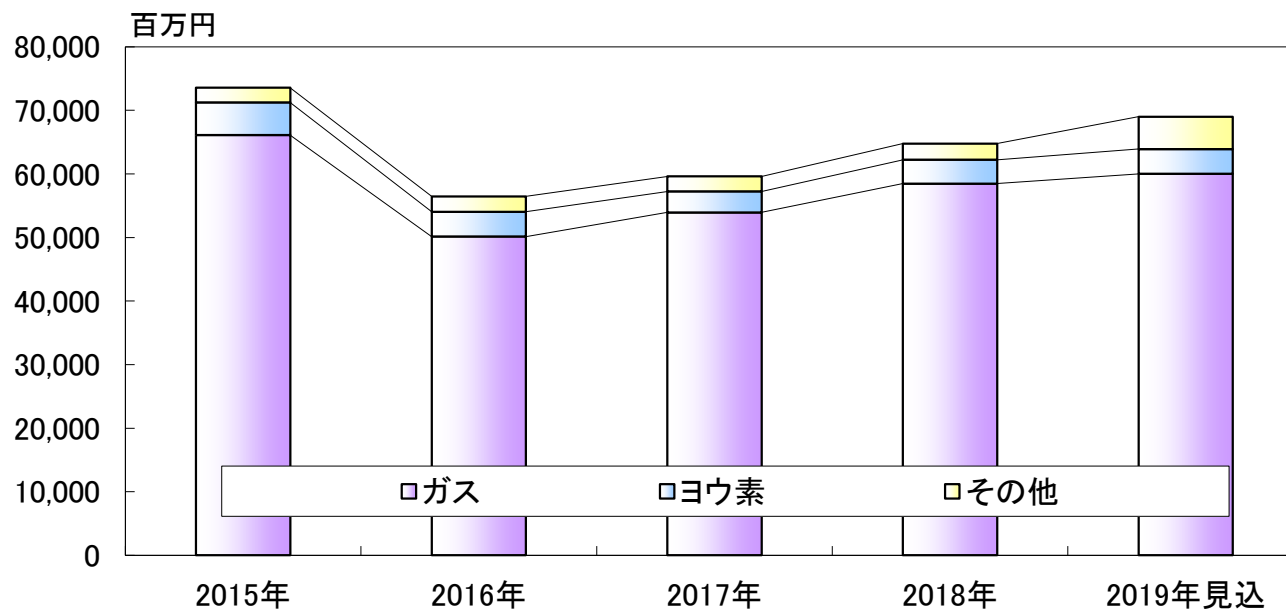
<利益>

- ・ 経年設備の更新等による一時的なガス生産量の減少、
それに伴うガス仕入費用の増加

5. 業績の概要

5-3. 売上高の推移

K&O エナジーグループ



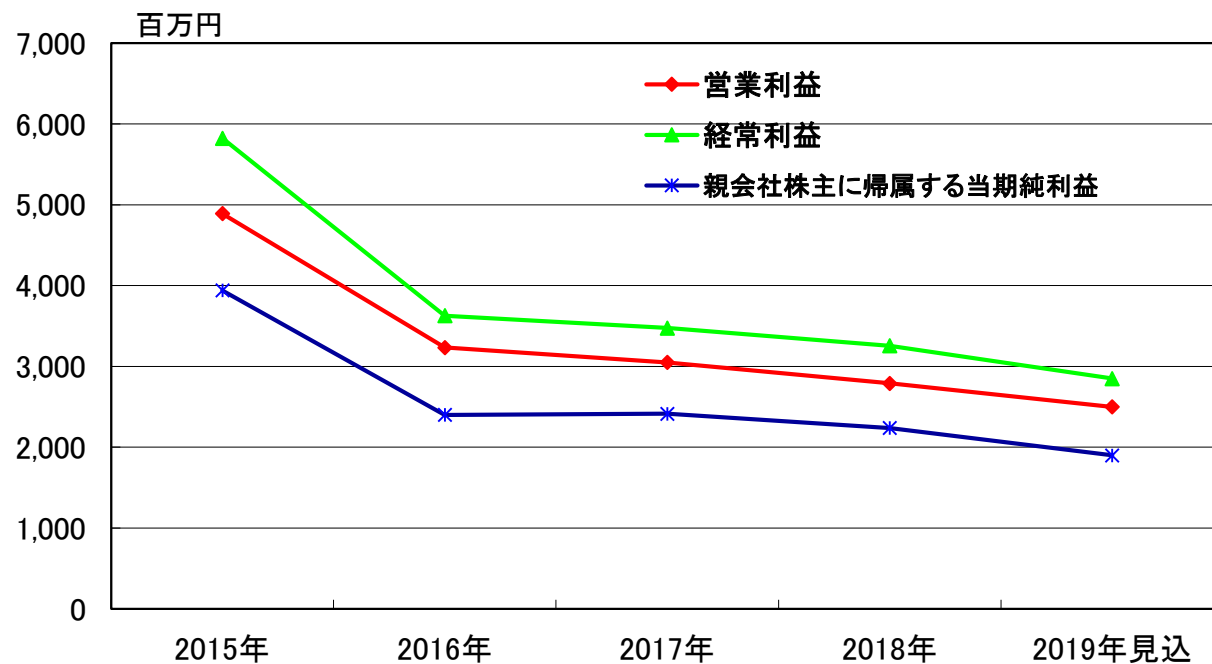
単位：百万円

区 分		K&O第 2 期 2015年	K&O第 3 期 2016年	K&O第 4 期 2017年	K&O第 5 期 2018年	K&O第 6 期 2019年見込
売上高	ガス	66,106	50,144	53,939	58,478	60,000
	ヨウ素	5,140	3,894	3,297	3,742	3,900
	その他	2,300	2,411	2,362	2,545	5,100
	合計	73,547	56,450	59,599	64,765	69,000

5. 業績の概要

5-4. 利益の推移

K&O エナジーグループ



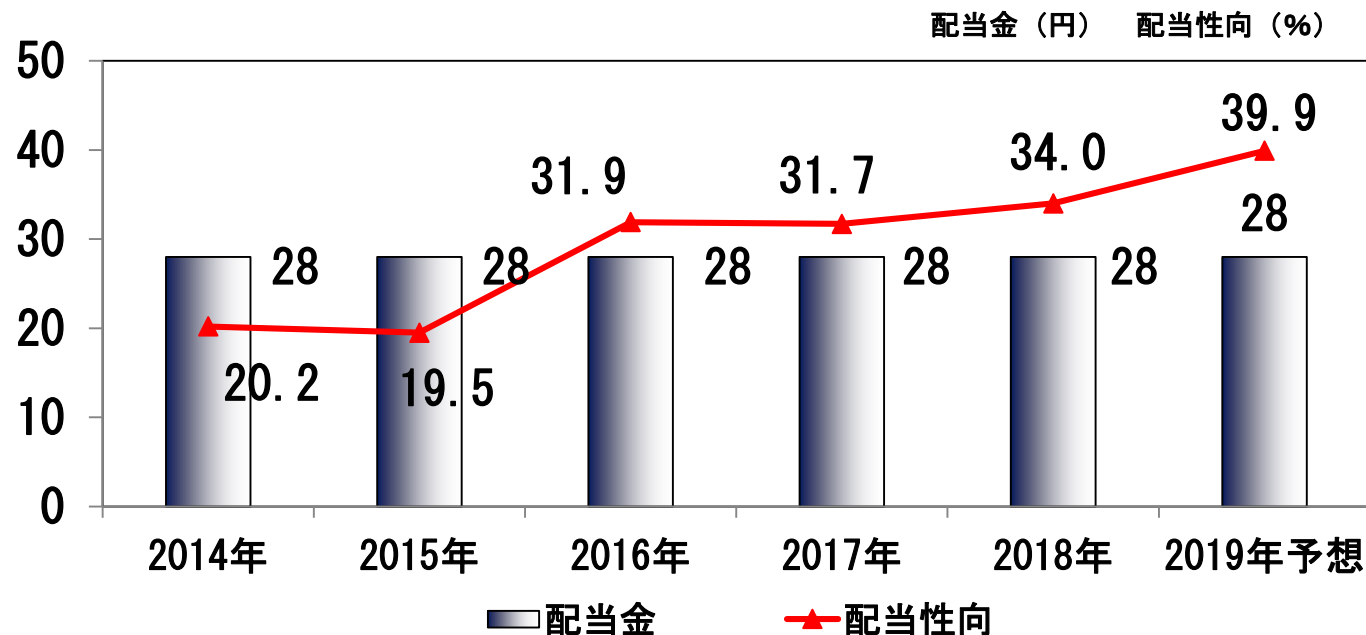
単位：百万円

区 分	K&O第2期 2015年	K&O第3期 2016年	K&O第4期 2017年	K&O第5期 2018年	K&O第6期 2019年見込
営業利益	4,891	3,234	3,051	2,790	2,500
経常利益	5,824	3,629	3,476	3,256	2,850
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,941	2,401	2,415	2,238	1,900

5. 業績の概要

5-5. 配当 基本方針：継続的な安定配当

K&O エナジーグループ



※2014年の配当性向は、特別利益に計上したK&O設立に伴う負ののれん発生益約46億円を除いて算出。

【2014年度】

- ・ 2013年関東天然瓦斯開発ベース24円＋増配2円＋記念配2円＝計28円

【2015～2018年度】

- ・ 中間（普通配）14円＋期末（普通配）14円＝計28円

～かん水の秘めたるチカラ～ 植物の成長を助ける「かん水フルボ酸」



かん水はヨウ素成分以外にもいくつかの有用な成分を含有しており、その一つが「かん水フルボ酸」です。

「かん水フルボ酸」は、植物の生長促進作用を持ち、現在、家庭用園芸肥料への添加物として採用されています。

フルボ酸は、動植物の遺骸が長い年月をかけて自然界で分解や重合を繰り返して出来る茶褐色の有機物で、腐植物質の一種です。土の中の各種ミネラルと結合し植物への吸収を促進することにより、植物の生育を高めます。

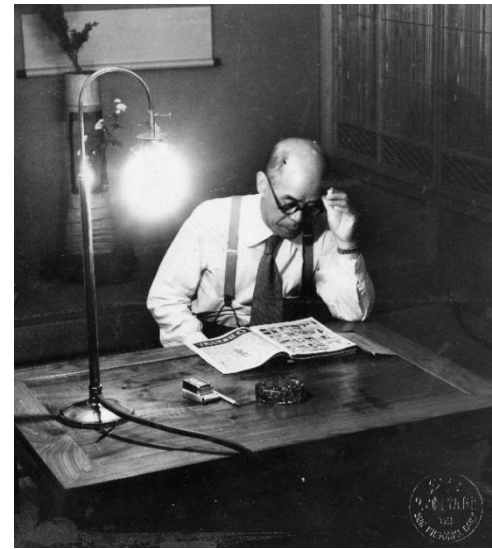
※お持ち帰り頂けるようにご用意しましたので、是非お試し下さい。



川面に湧き出る天然ガス(昭和25年)
千葉県茂原市



畑でガスに点火して湯を沸かす農夫(昭和25年)
千葉県大多喜町



天然ガスによるガス灯の利用(昭和25年)
千葉県茂原市



天然瓦斯井戸発祥之地 碑
千葉県大多喜町

本日の説明は以上です
ご出席いただきありがとうございました

K&O エナジーグループ株式会社

K&O Energy Group Inc.